

## トマル[Tomar] - アクセシブルプラン

について



### トマル[Tomar] - アクセシブルプラン

トマルは、テンブル騎士団が街の発展に根本的な役割を果たしたことから、“テンブル騎士団の街”として知られています。テンブル騎士団がここトマルに建設したテンブル城とキリスト教修道院[Convento de Cristo]は、ユネスコ世界遺産に登録されています。

[地図を見ながらお勧めルート歩く](#)

街の最も高い丘の一つに立つこれらの歴史的建造物を、旅の最初にまず訪れることをおすすめします。歴史地区から伸びるドウトール・ヴィエイラ・ギマラインズ通りは[Avenida Dr Vieira Guimaraes]は、急勾配の坂道で、歩道や横断歩道也没有。歩くには危険なので、体に障がいのある

方は車か、バス[TUTomar]を利用すると良いでしょう。道沿いにあるのは、[ノッサ・セニョーラ・ダ・コンソラサオン教会\[Ermida de Nossa Senhora da Conceição\]](#)

(1)です。ルネッサンス様式のこの小さなチャペルは、内部の見学は期間が限られていて、階段も小さく急なので、注意が必要です。



Photo: Convento de Cristo, Tomar © Shutterstockkelifamily

#### キリスト教修道院

(2)は、さまざまな時代の建築様式が反映されており、美術史を学ぶにはうってつけの場所です。訪れる前に事前予約して、障がい者を対象としたサービスを確認しておく和良好的でしょう。体に不自由のある方は、グランドフロアに通じる北側のエントランスから入ることをおすすめします。建物内を見学できる車椅子用の傾斜スロープがあり、また2階に行く業務用エレベーターもあります。目の不自由な方は、オーディオガイドや、建築物の形・素材を触りながら歩くことのできる通路を利用できます。



Photo: Tomar © ShutterstockAlena Zherava

修道院の隣にあるのが、[セテ・モンテス国立森林公園\[Mata Nacional dos Sete Montes\]](#) (セブン・ヒルズ・ウッズ) (3)です。誰もが楽しめる緑豊かな憩いの場で、先ほどと同じ、歴史地区から伸びるドウトル・ヴィエイラ・ギマラインズ通りから入ることができます。次に訪れたいのが、街の南側にあるユニークな[マッチ博物館\[Museu dos Fósforos\]](#) (マッチ・ミュージアム) (4)。この建物は、体に障がいのある方も見学しやすい[サン・フランシスコ修道院\[Convento de São Francisco\]](#) (5)の中にあります。その後に、ポルトガル・ゴシック建築を代表する[サンタ・マリア・ド・オリヴァル教会\[Igreja de Santa Maria do Olival\]](#) (12)を訪れてはいかがでしょうか。右側のエントランスには傾斜スロープがあり、教会内部をめぐることができます。外観同様、内観もとてもシンプルで、テンプル騎士団を率いた総長たちの墓があります。



通りをさらに進むと、街の守護聖人のために建設された[サンタ・イリア教会\[Igreja de Santa Iria\]](#) (11)があります。エントランスには階段があり、内部に障害物があることから、介助なしで見学することはできません。教会はナバン川岸に建ち、トマルの街を流れるこの川は美しい景色で楽しませてくれるだけでなく、暑い日には心地よい清涼感を与えてくれます。さまざまな堤防で高低差が

(10)があ

ります。くつろ

ぎの場所として、人気の高いバ

リアフリーの公園です。この近くで、もう一つおすすめしたい

のが、[市立美術館コンテンポラリーアート・センター](#) (9)。誰もが利用しやすく、障がい者の方々にも心配りが行き届いています。



Photo: Igreja de São João Baptista, Tomar @ ARPT Centro de Portugal

旅の最後は、街の中心部となります。ほとんどが平坦な道なので、特に苦勞することはありません。最も中心に位置するのは、レパブリカ広場(6)。4年に1度開催される、タブレイロスの祭り (Festa dos Tabuleiros) の賑やかなパレードが集合する場所です。ここには、**洗礼者ヨハネ**[São João Baptista]のために建てられた**聖母教会**[Igreja Matriz] (メイン・チャーチ) (7)があります。美しいマヌエル様式の入り口を進むと、障害物のないゆったりとした空間が広がります。このすぐ近く、狭くでこぼこしたドウツール・ホアキム・ジャシント通り[Rua Dr Joaquim Jacinto]にあるのがシナゴークで、現在は**アブラハム・ザクート・ルソー＝ヘブライ美術館**[Abraão Zacuto] (8)として親しまれています。段差1つだけ気をつければ、広い館内はバリアフリーで、貴重な碑文や文書録コレクションを見学することができます。

おすすめしたプランの最終地点は、街の中で最も活気のある場所です。ここには昔ながらのお店や、トマルの伝統菓子「ファティアス・デ・トマル」[Falias de Tomar] (トマル・スライス) などが楽しめるカフェが集まっています。旅の締めくくりにも、街をめぐり疲れて消耗したエネルギー補給にもぴったりでしょう。

### お役立ち情報

バス-トマル市交通 TUTomar [TUTomar - Transportes Urbanos de Tomar]が運行しています。バスには、車椅子利用者向けの地面まで降りる傾斜スロープ、体の不自由な方専用のスペース、安全ベルトを装備。車内は広く、車内通知も可聴化・可視化されています。バス待合所には時刻表、各ルートの停留所についてのインフォメーションが設置されています。

バス・ステーションは、障がい者の方も安心して利用可能です。傾斜スロープから出入りでき、建物内は広く整備されていますが、低く据えられたチケットカウンターはありません。

TUTomar – [www.cm-tomar.pt/index.php/transportes-urbanos](http://www.cm-tomar.pt/index.php/transportes-urbanos)

鉄道-トマル駅は、コンパテンテス・ダ・グランデ・ゲーラ通り[Av. Combatentes da Grande Guerra]にあります。傾斜スロープ、障がい者用トイレがあり、インフォメーションも可聴化・可視化されていて、すべての人が利用できる設備が施されています。ただし、体の不自由な方が利用するチケットカウンターが低く設置されておらず、その点カスタマーサービスは注意が必要です。車両は、体に障がいのある方に十分配慮された広さがあります。プラットフォームからも乗車しやすく、車内空間は広々として、移動中も可聴化・可視化された通知で各停車駅を確認することができます。

ポルトガル鉄道[CP-Comboios de Portugal]は、SIM = 統合モビリティサービス[SIM - Serviço Integrado de Mobilidade] (インテグレートド・モビリティ・サービス)に関する情報を、年中無休・24時間、電話(+351) 707 210 746 (707 210 SIM)で提供しています。障がいのある方はこのサービスで、電車や駅のアクセシビリティ、乗車時・乗車中・降車時のサポート、その他の情報を確認できます。

詳細はこちら: [www.cp.pt](http://www.cp.pt)

タクシー - タクシー会社マリアナ・ヌネシュは、障がい者の方に向けた機能を完全装備した車を走らせています。ここでおすすめし

ている観光プランのほか、トマル市内のどこでも快適にまわることが可能です。  
運営者：マリアナ・ヌネシュ・タクシ: Mariana Nunes Táxis - 914 109 794 / 961 286 002